

卒業生の声、集めました

2015/7/15～2015/8/10 まで、3 区を卒業した当事者の声をインターネットで募集しました。ここではメッセージを書いてくれた人の声を一部抜粋して紹介します。

ゲイの小林さん(仮名)

年齢:49 歳

出身:阿倍野区の高校出身

自分のセクシュアリティを自覚し、いわゆる“オカマ”と呼ばれる大人になることに、とても大きな表現できない恐怖を覚え、絶望感に浸っていた。

「男同士そんなんしたらホモになるぞ」という先生の言葉が忘れられない。

小学4年のとき、「オカマと呼ばれることがとても嫌だ」という自分の意見について、学級会を1時間使って議論してくださりクラスメートの反応が変わった。大変感謝している。

ゲイの来住さん(仮名)

年齢:26 歳

出身:都島区、友渕中学校出身

小学校、中学校のときにオカマとからかわれたり、裏でそう言われていた。先生が男同士でセックスすることを冗談めかして話していた。通信簿に「もっと男の子と遊ぶように」と書かれた。校外学習で、商売としてオネエキャラを演じているタイプの人の舞台を観にいき、非常に不適切だと感じた。高校では友人に相談していた。誰かに言わないことにはとてもやっていけなかった。

FTX、無性の金さん(仮名)

年齢:20 歳

出身:阿倍野区、文の里中学校出身

水泳は水着がすごく嫌でほとんど休んだ。「おとこおんな」とからかわれたことがあった。保健の授業で担任の先生が同性愛について笑っていた。カミングアウトしたら適当に共感されてすごく嫌だった。セーラー服がすごく嫌だったが、担任の先生のおかげで、高校3年の間だけズボンで通わせてもらえた。思春期の一時の気の迷いだと受けとらずに真剣に聞いてもらえて本当に救われた。